

平成 25 年度第 2 回土木計画学研究委員会 議事録

平成 25 年 11 月 2 日(土)昼休み

場所 大阪市立大学

議事録担当幹事：井料，嶋本

出席者（かっこ内は所属。「大学」は省略）

谷口（委員長，京都），秋山（副委員長，関西），多々納（幹事長，京都），溝上（熊本），高野（北海道），轟（日本），屋井（東京工業），原田（東京），竹林（神戸），山中（徳島），山田（茨城），奥村（東北），小村（京都），喜多（神戸），塚田（国総研）

（以下幹事兼任委員）金子（日本），嶋本（宮崎），平田（運政研），有村（室蘭工業），井料（神戸），倉内（愛媛），福田（東京工業），福本（東北），藤見（熊本），織田澤（神戸），谷本（鳥取，代理：土屋），宇野（京都），菊池（東北工業）

配付資料

資料-1 平成 25 年度第 1 回土木計画学研究委員会議事録（案）

資料-2 平成 25 年度土木計画学研究委員会名簿

資料-2-1 土木計画学研究委員会 新委員候補者

資料-3 「高齢化時代のモビリティ確保を考慮した交通安全研究」研究小委員会申請書（案）

資料-4 土木計画学研究委員会・細則 改定案

資料-5 学術小委員会資料（平成 25 年度土木計画学研究委員会・第 2 回委員会資料）

資料-6 第 49 回土木計画学研究発表会（春大会）の概要および企画論文部門・スペシャルセッション部門オーガナイザーの公募について

資料-7 第 48 回土木計画学研究発表会 2014 秋大会の準備状況について

資料-8 小委員会活動状況

資料-9④ 土木計画学ホームページ担当業務

資料-9⑤ 土木計画学研究委員会国際セミナーについて（報告）（当日再配布資料あり）

資料-9⑥ イベント情報をお寄せ下さい

資料-9⑧ 平成 25 年度土木学会全国大会研究討論会について（開催報告）

当日配布 100 年略史 11 月 1 日現在

1. メンバー紹介（多々納）

新任メンバーの紹介がなされた。

2. 委員長挨拶（谷口）

谷口委員長より挨拶があった。

3. 前回議事録案の確認（多々納）

委員会終了までに個別で確認することが要請された（確認済）

4. 委員の交代について（多々納）

新委員として 2 名の候補者があったことが説明された。小野憲司氏および小路康弘氏（詳細は資料 2-1 に掲載）。これら 2 名が新委員として承認された。

5. 研究小委員会の設置について（宇野）

宇野伸宏氏よりあった申請案（資料-3）について当人より説明があった。設置が認められたら委員公募を行う予定である。設置期間は承認後 3 年間なので、最初は公募委員なしで開始となることが確認された。原案どおり設置が承認された。

6. 細則の改訂について（多々納）

土木計画学研究委員会・細則について、名称を実態に合わせて修正（春大会幹事会→春大会運営小委員会）、および項目番号を修正する改定案が提案され（資料-3 右側欄）承認された。

7. 学術小委員会からの報告（溝上）

資料-5 に従って以下のように説明がなされた。

- 1) Vol.30 の編集結果について報告があった。採択率が Vol.29 より少し下がったこと、分野別の採択率にやや差があることが報告された。採択率については 2001 年からの推移があわせて報告された。今年度については投稿数が減ったわけではなく、採択率の低下が掲載数の低下につながっている。一般号へ投稿をシフトすることも望ましいことが合わせて報告された。
- 2) 秋大会のプログラム編成について説明があった。司会者の割り振りに手間がかかったことが報告された。
- 3) 改善会議について報告があった。特に論文集特集号について説明があった。
- 4) 国際セッション開催について説明があった。
- 5) 次期メンバーについて紹介があった。委員長は屋井鉄雄氏、幹事長は福田大輔氏。上記報告事項にあわせて、溝上学術小委員長より、土木学会論文集特集号の次号（Vol.31）より、投稿の際のルール変更（メ切日以降の確認期間を無くし、メ切日以降の差し替えを不可とする）についての提案がなされ、委員会として承認した。

8. 2013 年秋大会について（内田）

事前登録は 543 名で、当日 11:45 で 94 名であり、現時点で 637 名であることが報告された。昨年度は 700 名程度だったので、今後追加で登録があれば同様の数になると思われる。

9. 2014年春大会の準備状況について（轟）

2013年度春大会においてはセッション数に少し余裕があったことが報告され、あわせて、新規の委員について紹介があった。その後2014年度について資料-6に従って説明があった。会場は東北工業大学である。公共政策デザインコンペについては岡田先生に審査委員長を依頼することとなった（黒川賞が岡田賞になる）。北村賞を北村記念賞と名称変更することとなった。オーガナイザーは1名のみとする（プログラムが組みやすくなる）。特集号への投稿資格を名文化している。開催校での準備も順調に進んでいることが報告された（菊池）。コンペ賞について確認：投票をもとに、運営小委員会が選定をしている。

- 北村賞の名称について：もともと委員長の先生の名前を使うことになっていたが、石田先生が北村先生の名前を残すことを提案された現状そのままである。もしこれを見直すのであればいまいかない。原案どおりにするか、それ以外の名前に変えるか、両方の意見が出たものの、最終的には小委員会の案のまま進めることとなった。

10. 2014年秋大会の準備状況について。

資料-7にしたがって準備状況の説明があった。2014/11/1-3 鳥取大学。

11. 研究小委員会からの報告（有村）

資料-8にしたがって説明があった。「交通まちづくりの実践研究小委員会」の設置期間の1年間の延長と、「航空輸送に関する高度なモデル化ならびに統計分析に関する技術検小委員会」の半年の設置期間の半年間の延長が承認された。また、「実践的 ITS 研究小委員会」、「リスク評価に基づく道路構造物・ネットワークの耐震設計に関する合同研究小委員会」、「土木計画学研究委員会・東日本大震災特別小委員会」、「土木計画学研究委員会活動の長期的戦略課題検討小委員会」、「公共政策における物語研究ワーキング」の活動終了が確認された。

12. 幹事会からの報告

- 1) HP 担当（平田）：HP の英語化、日本語のページのさらなる改良を行っていることが報告された。
- 2) 国際セミナー（平田）：セミナーの開催件数は年々増えていることと、土木学会のロゴを使いたいという要望があるが、申請すればロゴの使用が可能なが報告された。
- 3) 国際センター（嶋本）：国際センターより研究委員会で開催されている海外シンポジウムの開催実績の問い合わせがあり、資料の通り実績として報告したことが報告された。
- 4) 全国大会研究討論会（多々納より代理報告）：積極的な参加と企画案があれば研究委員会まで挙げる事が確認された。

13. その他

来年の土木学会 100 周年事業に向けて将来ビジョンの作成を行う必要があるが、交通、国土利用、まちづくり等に関して研究委員会で協力して作成をすすめてほしいとの依頼があった（屋井）。

以上